

## 東横堀川（本町橋周辺）における、水辺の賑わい拠点づくりについて ～小型船が行きかう“水と光のコリドール”の回遊基地をめざして～

【お問合せ先】大阪商工会議所地域振興部 中野・中村  
☎ 06 (6944) 6323

- 大阪商工会議所 都市再生委員会（委員長：錢高一善・株錢高組社長）は、大阪都心部の水の回廊（土佐堀川、東横堀川、道頓堀川、木津川で形成）の一角を占める東横堀川における水辺の賑わい拠点づくり（本町橋周辺）に関する提言をとりまとめた。本提言は、昨年7月より、舟運事業者や地元事業者等をメンバーとするワーキンググループで検討してきたもの。
- 現在、本町橋周辺では大規模な下水工事が行われているが、平成18年7月に大阪商工会議所が大阪市に要望したことを受け、工事現場に船着場が設置されている。しかし、目立たない場所にあるため、イベント開催時などの限定的な利用にとどまっている。本提言では、この下水工事が終了する平成25年度末にあわせ、船着場を再整備するとともに、水の回廊の回遊性を高める小型船の拠点として活用し、水辺の新たな魅力や賑わいを創出することを提案している。
- “水都大阪”にふさわしい賑わいを創出するためには、舟運全体の活性化が不可欠で、中でも機動力のある小型船のさらなる活用が求められる。現在、大阪都心部には小型船の係留場所がないため機動的な運航が難しく、遠方の係留場所からの移動費は運航事業者のコスト要因となっている。本提言では、小型船や無動力船の基地を本町橋周辺に設けるとともに、川沿いの公園や橋、また対岸店舗の地先利用なども含めた一体的な水辺の賑わいづくりに向け、民間参画が促進される利活用の仕組みづくりと管理運営体制を求めている。
- 大阪商工会議所では、平成18年より東横堀川沿川地域の活性化に向けて「東横堀川水辺再生協議会（略称：eーよこ会）」を設置し、地元の関係者とともに、大阪最古の堀川・東横堀川の魅力向上に継続的に取り組んできた。
- 大阪府市統合本部の都市魅力戦略会議で近く取りまとめられる「大阪府市都市魅力戦略」において、本提言を「水と光のコリドール」実現に向けた重要なプロジェクトの一つと位置づけられるよう、働きかけを行う。

### <提言内容のポイント>（詳細は、添付の提言書参照）

- コンセプトは、「まちなかを楽しむ小型船基地『本町橋BASE』」。
- 都心部のさらなる舟運活性化に不可欠な小型船や無動力船の係留施設を設け、水と光の名所を集めた「水と光のコリドール」を回遊する拠点とする。
- 川沿いの公園や橋、また対岸の地先利用なども含めた一体的な水辺の賑わいづくりに向け、民間参画が促進される利活用の仕組みづくりと管理運営体制を構築する。

以 上

<添付資料> 「東横堀川（本町橋周辺）における水辺の賑わい拠点づくり提言書」

---

# 東横堀川(本町橋周辺)における水辺の賑わい拠点づくりについて

～小型船が行きかう"水と光のコリドール"の回遊基地をめざして～

---

◆————— 目 次 —————◆

1. はじめに
2. 東横堀川の地域特性と現状
3. 東横堀川・本町橋のポテンシャルと課題
4. コンセプトと期待される機能
5. 本町橋と両岸を一体的に捉えた機能配置
6. 夕暮れ時の空間イメージ
7. 企業等の参画を促進する管理運営体制(イメージ)
8. 実現に向けたスケジュール(イメージ)

平成24年6月  
大阪商工会議所

# 1. はじめに

## (1) 水都大阪推進の取り組み ～ハード整備から官民連携体制づくりへ～

大阪では、平成13年の内閣府都市再生プロジェクトの採択を受け、「水の都大阪再生構想（平成15年）」を策定し、府・市・経済界のオール大阪で水の都・大阪再生の取り組みを進めてきた。八軒家浜の再生やとんぼりリバーウォークの整備、中之島公園のリニューアルなど、公共事業を中心としたハード整備が先行して成果をあげるなかで、平成21年のシンポルイベント「水都大阪2009」を契機として大阪川床・北浜テラスが常設化されるなど企業や市民、NPOなど民間の機運も高まり、「水都大阪フェス2011」に活動のステージを継承している。さらに、平成23年8月には新たに「水都大阪 水と光のまちづくり構想（水都大阪推進委員会）」が策定され、今後10年間を目処としてさらに民間の取り組みを促進すべく、官民連携体制「水都大阪パートナーズ（仮称）」づくりを目指すものとしている。



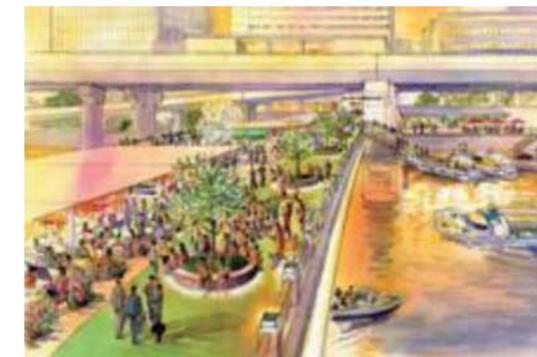
「水と光のまちづくり構想」(H23.8 水都大阪推進委員会)より



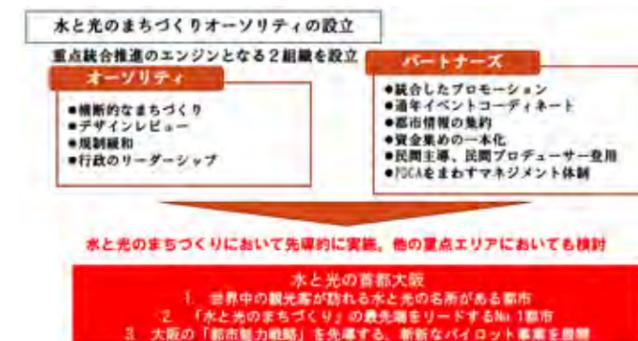
水都大阪フェス2011

## (2) 大阪府市都市魅力戦略会議での「水と光のまちづくりの推進」の検討

平成24年1月、府市統合の流れから「大阪府市都市魅力戦略会議・水と光のまちづくり推進ワーキンググループ」が設置された。そこでは、官民が連携した重点統合的な水と光のまちづくり推進に向けて、横断的なまちづくりを実現する行政組織「水と光のオーソリティ」、BIDや特区導入など大胆な規制緩和を実現する制度、水と光の名所が集まる「水と光のコリドール」、都市魅力戦略を先導する事業「水と光のグランバル」などが検討されている（平成24年5月現在）。平成24年6月には基本方針がとりまとめられ、今後重点的に水と光のまちづくりが進められていくこととなっている。



「第8回府市統合本部資料」H24.4)より



「第2回都市魅力戦略会議資料」(H24.3)より

## (3) 東横堀川における水辺のまちづくりの展開

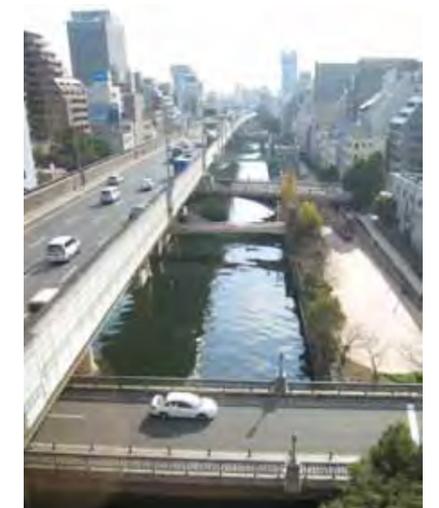
東横堀川は1585年に大坂城の惣構として開削され、現在では水都大阪・水の回廊の一辺を構成する、大阪で最も古い堀川である。高速道路の高架に覆われるオフィス街の都心河川でありながら界隈には歴史資源が集中し、平成18年に発足した東横堀川水辺再生協議会（eーよこ会）の活動をきっかけに、川を活かしたまちづくりの機運が高まっている。東横堀川水辺再生協議会では、平成21年に整備された本町橋船着場（暫定）を活用し、小型船短期係留実験やクルーズ&ウォーク、eーよこ逍遥など川とまちをつなぐ取り組みを行っている。また、平成19年から東横堀川・堂島川ライティング実行委員会の取り組みもスタート、平成22年には常設ライトアップが実現するなど光のまちづくりの取り組みも進んでいる。



現在の本町橋船着場(暫定)



東横堀川・本町橋の位置



高速道路の高架が覆う東横堀川

そこで、「水と光のコリドール」の実現に向けて、東横堀川・本町橋周辺を対象に、官民連携による水辺の賑わい拠点づくりについて提案するものである。

## 2. 東横堀川の地域特性と現状

東横堀川は土佐堀川から道頓堀川へ流れ、北浜や堺筋本町、谷町界隈などに囲まれた都心部に位置する。町人町・船場と武家屋敷町・上町の境界であったため、高麗橋・本町橋・農人橋の3つの公儀橋が架けられ、街道が集中、伝統的建物が点在するなど、周辺には歴史的な資源が多い。また川沿いには水門や公園など落ち着いたオープンスペース、川を眺めることができる個性的な店舗などが存在しており、まちなかで川を身近に楽しめるエリアとなっている。大阪証券取引所や大阪産業創造館、中央区役所、東警察署など、拠点となる公共施設が集中しており、他地域からの来街者も多い。

### (1) 橋を中心としたエリア

土佐堀川から中央大通までには、葎屋橋、今橋、高麗橋、平野橋、大手橋、本町橋、農人橋の7橋が架かっており、高麗橋、本町橋、農人橋の3橋は江戸時代には公儀橋（江戸時代、幕府が直接管理した橋。大阪全体で12橋のみ）であったなど歴史的に重要な橋が多い。そのなかでも高麗橋と本町橋は、歴史性だけでなく現状においても特徴的な橋であり、橋を中心として地域の核となる界隈を形成している。

#### ①高麗橋エリア

高麗橋は東京・江戸の日本橋と対になる東海道五十七次の終着点であり、通りには船場を代表する大店が並んでいた。平成22年から高麗橋周辺の高速道路の高架がライトアップされており、現在は高麗橋自体のライトアップが検討されている。



#### ②本町橋エリア

現役の橋としては大阪市内最古の橋であり、大正2年に建設された。橋詰の北東側には享保9年(1724)の大火事以降に西町奉行所が設置され、現在でも跡地には拠点的な施設が集中する。界隈にはカフェやショップなど水辺の古い建物を活用した魅力的な店舗が並んでいる。



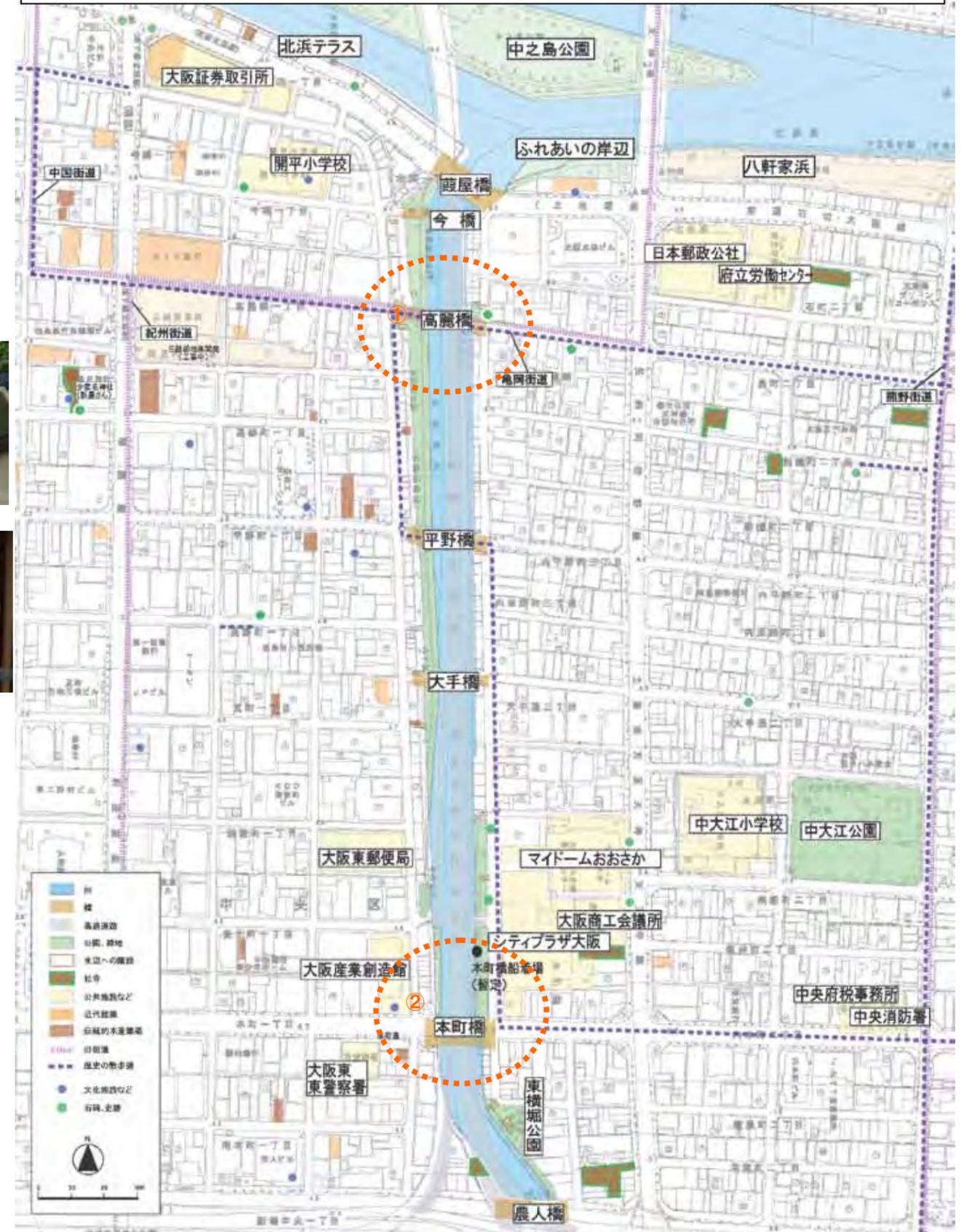
### (2) 活発なまちづくり活動

東横堀川界隈は、昔から代々住み続けている住民から、企業の就業者、新しいショップのオーナーまで、新旧の人々が地域に混在しており、多様な地域資源に着目しながらまちづくり活動を展開している。

【主なまちづくり活動団体】

東横堀川水辺再生協議会(e-yoko会)	川を活かしたまちづくり活動を展開。e-yoko逍遥など。
北浜水辺協議会	大阪川床・北浜テラスの取り組み。
まちのcommons実行委員会	高麗橋界隈を中心とした地域のお祭り
北大江まちづくり実行委員会	公園の魅力づくり、歴史勉強会など。
船場げんきの会	船場地区で活動するまちづくり団体のネットワーク組織。船場まつりなど。
船場地区HOPEゾーン協議会	近代建築など歴史的資源を活かしたまちなみづくり。

東横堀川の地域資源分布(土佐堀川～中央大通)



# 3. 東横堀川・本町橋のポテンシャルと課題

## (1)ポテンシャル

### ① e-よこ会を中心とした水辺の賑わいづくり

#### a. 小型船で水辺を楽しむ「小型船短期係留実験」

都心部にない小型船の係留場所の可能性を探るため、平成20年と平成23年、大阪小型水上旅客船協議会と連携して短期係留実験を2回実施。クルーズ&ウォークを開催して本町橋周辺での小型船係留のポテンシャル及びニーズを明らかにするとともに、事業者の具体的な課題を整理した。

#### b. みんなが集う水辺を実現「川舞台」

「水都大阪2009」の本町橋船着場プログラムの一環として、本町橋上流の東横堀公園に水辺を眺められるステージ「川舞台」を設置。計12回・7団体のNPOや地域団体が活動場所とし、延べ580人が利用、地域による水辺の場づくりに取り組んだ。

#### c. 本町橋の魅力づくり

平成18年、本町橋の魅力アップを目指して橋詰にフラワーポットを設置。地元花店が季節ごとに花を植え替え、道行く人の目を楽しませている。

#### d. 川とまちをつなぐ取り組み

e-よこ会では、水辺だけでなく、川とまちをつなぐ様々な取り組みを地域内外の連携協力団体とともに展開。面的な魅力づくりを実現している。



小型船短期係留実験



川舞台



本町橋のフラワーポット

### 【e-よこ会の活動実績】

e-よこ会単独	連携協力(NPO・店舗・小学校など)
<p><b>川</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>東横堀川クルーズ(H18.3.30)</li> <li>川から橋を眺めるクルーズ(H18.9.15)</li> <li>本町橋横流いのクルーズ(H17.7.100人)(横流い主催:大阪市中央区民館)</li> <li>e-よこ会・船旅と・船あそび1:小型船クルーズ(1:大船渡クルーズ2:淀川クルーズ)エコボートクルーズ。ウォーク-ボート体験(H18.10.100人)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小型船係留実験(H20.10)(主催:大阪小型水上旅客船協議会、大阪商工会議所、大阪市)</li> <li>エコボートクルーズと水辺のウォーク(H18.9.200人)(協力:東横堀川・淀川委好会)</li> <li>水上ウォーククルーズ&amp;ウォーク(東横堀川で大阪町人の心電気にあふれる(H17.10.20人)(主催:大阪商工会議所、大阪市など)</li> <li>水上ウォーククルーズ&amp;ウォーク(H17.7.10.計6回、60人)(O.S.A.N.A.がむがむ)</li> </ul>
<p><b>水辺</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>遊き記水辺コンサート(H19.7)</li> <li>本町橋が遠くをのぞくコンサート企画(H18.3)</li> <li>平野橋・本町橋横流いのクルーズボートの設置(H19.6.25人)</li> <li>サマーフェスティバル(H19.7.約300人)</li> <li>アニメ・サリ-3.4(H18.7.60人)</li> <li>遊船プロジェクト(H18.2)</li> <li>オープンハウス-バーチャルプロジェクト(H18.1)</li> <li>ペンダックプロジェクト(H18.2)</li> <li>声の道プロジェクト(H18.10)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地元小学生・歴史講座と写生会(H18.10.関平小学校、60人)</li> <li>リバーサイドコンサート(H18.11.200人)(協力:関西ジャズ協会)</li> <li>e-よこ会・地元店舗など14番の船旅(H18.3.1500人)</li> <li>バー・カフェ体験教室(H18.7.親子70組)(大阪市立関平小学校・中大江小学校、NPO法人nature wiesal)</li> <li>えんはがき展・本町橋展示(H18.10.協力:大阪市中央区民館、大阪商工会議所)</li> <li>東横堀川・横流いのプロジェクト(H18.10.60人)(主催:大阪市中央区民館)</li> <li>「川舞台」の設置活用(H17.7-10.計12回・7団体・580人)e-よこ会・サリ-3.4、日教組(日ノ本リバープロジェクト)、川舞台アンバサダー・サリ-3.4(船旅企画(山本絵津葉)、クラフトコンソーシアム(コトボアンテナ)、水辺ミーティング(NPO水辺のまち再生プロジェクト)</li> <li>水辺とクルーズ(H18.7-10.計6回、200人)(企画運営:NPO法人パブリックスタイル研究所、協力:水辺のまち再生プロジェクト)</li> <li>異種つくプロジェクト(水都大阪2009)本町橋船着場プログラム(H17.7-10.計4回、大阪市立関平小学校、中大江小学校、バーカフェ、300人)(企画運営:アーティスト村上信志氏、NPO大阪アンバサダー)</li> </ul>
<p><b>まち</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>クラシックコンサート(H18.11.関平小学校、約250人)</li> <li>川の船/社会実験(H20.10.異種つくプロジェクト)</li> <li>e-よこ会水辺-テイクアウト作り、楽しむ、水辺の魅力(H18.2.計40回)</li> <li>【まちなみツアー】</li> <li>東横堀川(異種つく)まちづくりに出発ツアー(H19.11.20人)</li> <li>大阪あそび・東横堀川(異種つく)11.15人)</li> <li>まちあるきツアー「大阪あそび」(H18.4-11.4回、計60人)</li> </ul>	<p>【e-よこ会連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>第1回(H18.3.特別企画プログラム1回 体験プログラム5、約1000人)</li> <li>第2回(H18.11.特別企画プログラム11 体験プログラム5、約1000人)</li> <li>第3回(H19.3-4.特別企画プログラム11 体験プログラム7 スタンプラリー参加15回、約65名)</li> <li>第4回(H18.5-6.イベント34 遊船体験11 レスランカフェ4回 ショップ15)</li> <li>【e-よこ会シンボルカレッジ】H19年、毎月1回、毎回50人程度</li> </ul>

### ② 平成25年に迎える本町橋 100周年

デザインも美しい本町橋は大正2年に架けられた大阪で一番古い現役橋で、平成24年2月に大阪市指定文化財に登録された。平成25年5月には100周年を迎えるため、記念事業も検討中。



### ③ 高架ライトアップの検討

平成19年から高速道路の高架のライトアップ社会実験がスタートし、平成22年には今橋から高麗橋周辺で常設ライトアップが実現した。



高架ライトアップ

### ④ 「平成の太閤下水」工事終了後の復旧工事

現在、「平成の太閤下水」の工事現場となっている本町橋上流左岸は、平成25年には工事を終え、平成26年に復旧工事が予定されており、復旧工事に合わせた水辺の環境整備が検討中である。



工事現場の下にある現在の暫定船着場

### ⑤ 地先利用ニーズの高まり

東横堀川界隈の水辺には川に面した店舗が増加しており、「川床や地先利用をしたい」というニーズが高まっている。

#### 【川に面した店舗の声】

- GARBweeksのように、バーベキューなど東横堀川でも水辺で店ができるといい。水辺バルなどスポンサーになりたいという企業もあったし、自らやりたい人もいっぱいいる。最近水辺の利活用の話が多く、事業性は高いと思う。(レストラン)
- 地先利用がしたい。当然使用料が発生すると思うが、ルールに従って使用したいのでルールなど作ってほしい。(レストラン)
- 地先や水辺の公園が使えたら家具づくり屋外WSなどがしたい。毎日お昼に東横堀公園がすごく込んでるのでニーズは高いと思う。(インテリアショップ)
- 川沿いの店で集まって地先利用などしてみたい。ランニングコストが必要になるので活性化と運営のバランスが大切。(ブティック)
- 東横堀川沿いのオープンスペースで連動できる活動があればもっと水辺活用が広がりをもつと思う。(レストラン)

## (2)課題

### ① 水の回廊・都心部に小型船の拠点がない

大阪全体としてはこの10年間で年間旅客船乗客数が約10万人増加、定期クルーズの種類も増えている。なかでも小型船は事業者が増加、クルーズメニューも多様化するなど、新たな観光サービスとして注目が高まっているが、依然として都心部に小型船運の活性化に不可欠な小型船基地がないことから常時運行が難しいのが現状である。

### ② 東横堀川には民間による水辺の利活用の仕組みがない

中之島公園や八軒家浜の賑わい施設、とんぼりリバーウォークなどで民間企業による管理運営が実現、木津川では地域によるアドトリバーの取り組みが進むなど、大阪の他エリアでは民間の水辺利活用が進むが、東横堀川においてはその仕組みがまだない。



水の回廊の民間による水辺利活用

### <検討の方向性>

「水と光のコリドール」を実現する重要な拠点として、東横堀川・本町橋について、次の方向性でコンセプトや機能、管理運営体制等を検討する。

#### ①水辺とまちの回遊性を高める拠点

#### ②小型舟運を活性化する拠点

## 4. コンセプトと期待される機能

### コンセプト

## 本町橋BASE

### まちなかを楽しむ小型船基地

ここに来れば、船でまちを楽しめる。  
水辺で想いを実現できる。  
まちの魅力に出会える。

100歳の橋が見守る「本町橋BASE」は、  
小型船の並ぶ風景があり、  
使いこなす人々がいきいきと活動する水辺。

### 3つの機能

#### A 舟が集まる

小型船から大型船、無動力船など、  
いろいろな舟が安全に航行でき、使  
いやすい環境を整えることで、船が  
集まる拠点とする。



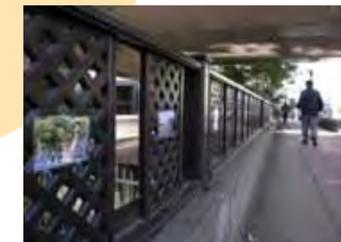
#### B 人でにぎわう

企業やNPOなどがオープンカフェ  
や川床など新たな魅力づくりに取り  
組める環境を整えることで、人で賑  
わう水辺を創出する。



#### C 地域とつながる

e-よこ会など地域のまちづくり団体  
と連携しながら、まちの歴史や魅力を  
発掘し、まちの情報発信拠点、交流  
窓口とする。

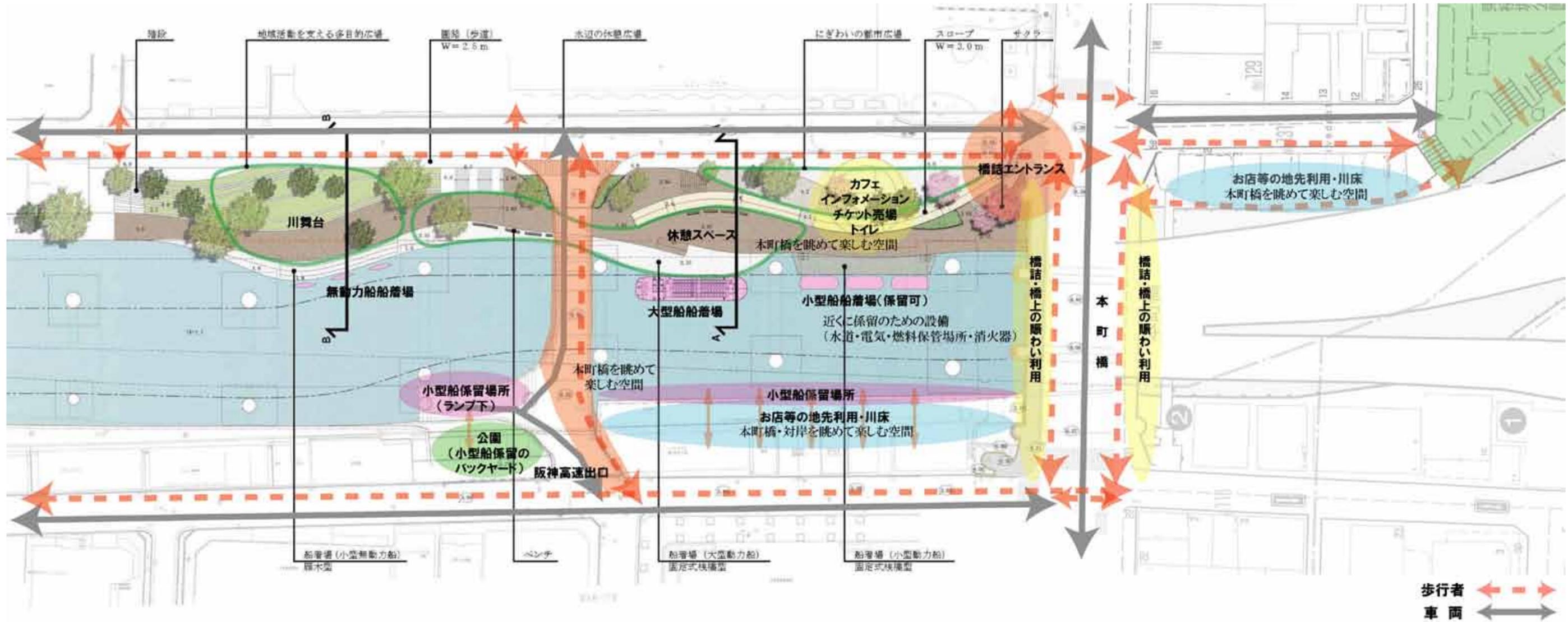


### 機能を構成する要素

機能	A 舟が集まる	B 人でにぎわう	C 地域とつながる
構成要素			
ハード系	<ul style="list-style-type: none"> <li>●船着場(大型船・小型船・無動力船)</li> <li>●係留施設(小型船・無動力船)</li> <li>●係留のための設備(水道・電気・燃料保管場所・消火器)</li> <li>●乗船券売場</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●オープンカフェ・川床</li> <li>●イベント広場</li> <li>●休憩スペース・トイレ</li> <li>●より親水性の高い水辺(護岸カット)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●インフォメーション</li> <li>●まちと水辺のアクセス</li> <li>●まちのシンボルとなるエントランス</li> <li>●本町橋が際立つ視点場</li> <li>●中之島方面へとつながるライトアップ</li> </ul>
ソフト系	<ul style="list-style-type: none"> <li>●航行ルール(見直し)</li> <li>●係留ルールと仕組み</li> <li>●地先の水辺利用のルールと仕組み</li> <li>●使いやすい水門利用のルールと仕組み</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●水辺利活用ルールと仕組み(公園・橋上・地先)</li> <li>●企業等の参加促進の仕組み・ネットワーク</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地元企業等の参加促進の仕組み・ネットワーク</li> <li>●幅広い情報発信</li> </ul>

## 5. 本町橋と両岸を一体的に捉えた機能配置

本町橋および両岸を一体的にとらえて、①川とまちをつなぐ歩行者ネットワークと拠点、②小型船を中心とした使いやすい船着場・係留機能、③本町橋を際立たせる賑わいと魅力づくりを配置することが望まれる。



N ← S = 1 : 800

## 6. 夕暮れ時の空間イメージ



# 7. 企業等の参画を促進する管理運営体制(イメージ)

これまでの東横堀川でのニーズや、トライアルによって抽出した課題を踏まえて、本町橋における小型船拠点「本町橋BASE」は、企業やNPOなど、多くの主体の参画が促進されるような管理運営体制が必要である。

## ■3つの基本方針■

### (1) 積極的に活用したい企業やNPO等にとって使いやすい体制づくり

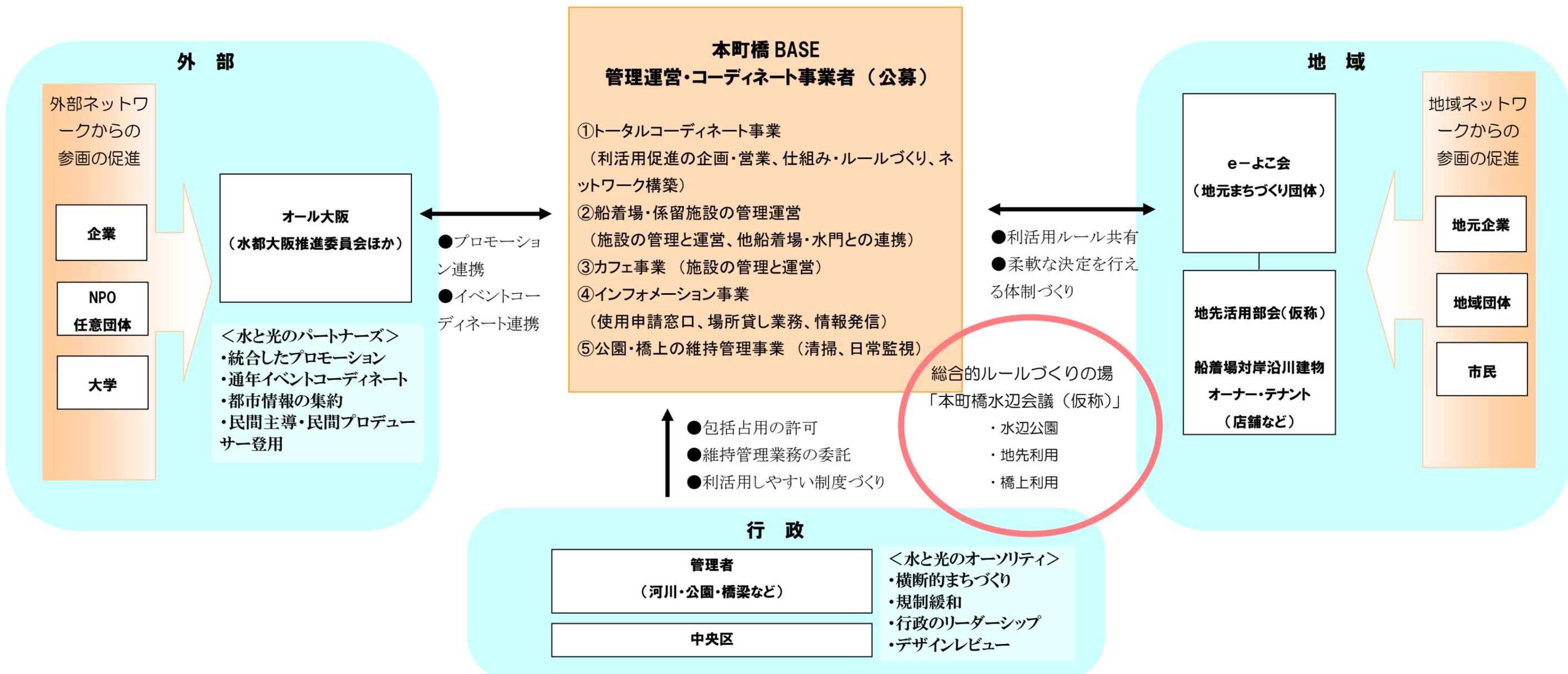
管理運営者が本町橋周辺の水辺(河川・公園・橋)の利活用に関する包括占用主体になり、利活用コーディネートの一元窓口になる。

### (2) 公園・河川・橋梁・沿川建物をトータルに考えた利活用の仕組み・ルールづくり

行政と地元協議会、対岸沿川オーナー・テナント、管理運営者が互いに協力しながら、本町橋周辺のトータルな水辺利活用の仕組みとルールをつくる。

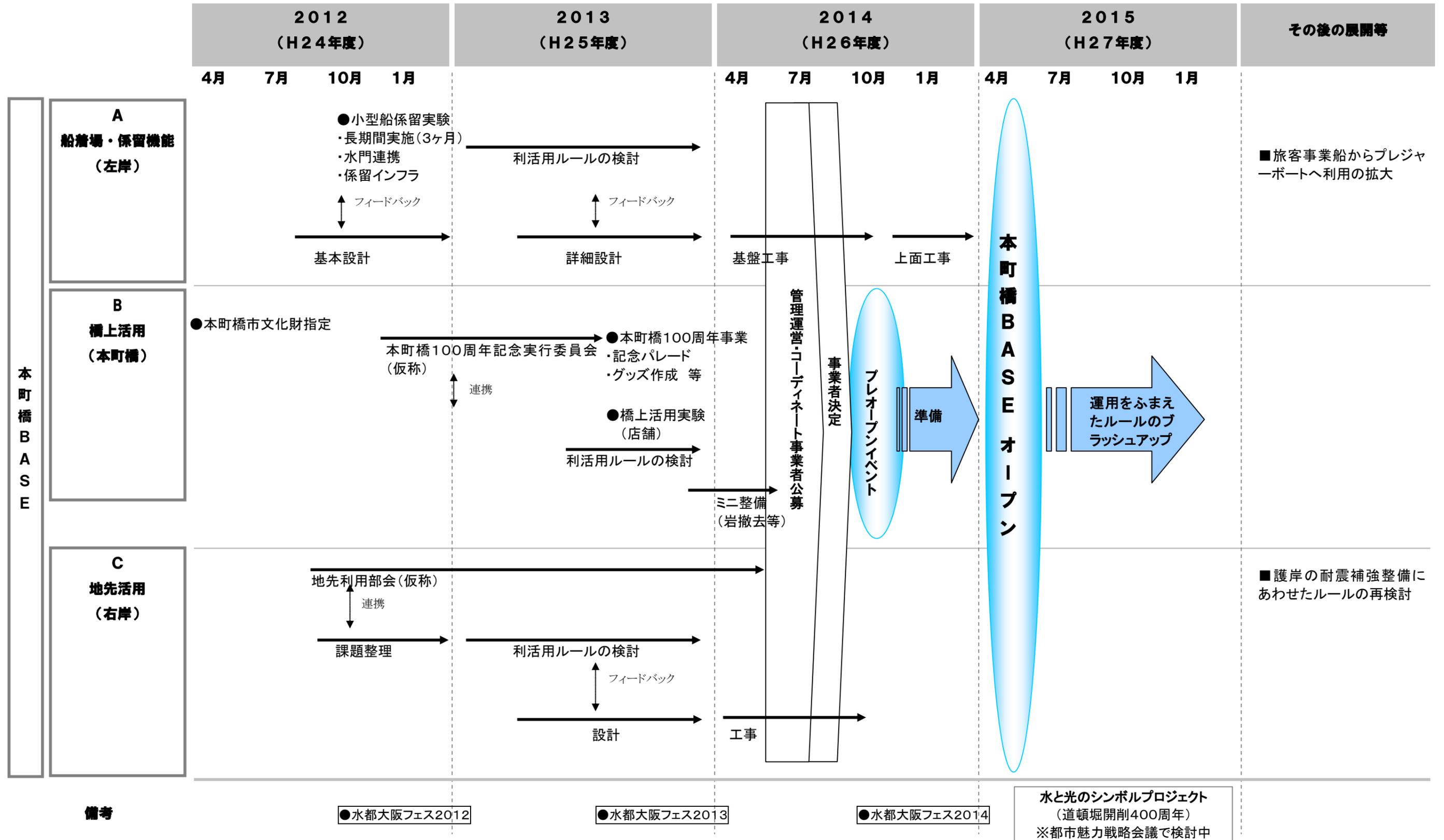
### (3) 企業等の参画を促進する内外ネットワーク構築

管理運営者が地域はもちろん、オール大阪ネットワーク(水と光のパートナーズ)ともつながり、内外からの企業等の参画、水辺の利活用を促進する。



## 8. 実現に向けたスケジュール(イメージ) ※関係先との調整を済ませたものではありません

2015年完了予定の本町橋周辺の水辺環境整備に向けて、オール大阪と連携して社会実験を行いながら、船着場や係留施設の運用、橋上活用、地先利用のスキーム検討や体制づくりを進める必要がある。



# ＜参考＞東横堀川の拠点的な水辺環境整備ワーキンググループによる検討

## (1) メンバー

		※団体名順、敬称略
大阪シティクルーズ推進協議会	事務局長	大江 幸路
大阪小型水上旅客船協議会	会長	伴 一郎
東横堀川・堂島川ライティング実行委員会	事務局	足立 聡
阪神高速道路(株)	環境景観室長	中坪 周作
東横堀川水辺再生協議会	会長	別所 俊顕
	水辺活用部会幹事	西村 寿晃
		荒木三貴子
	まちづくり企画担当幹事	針原 雅幸
	アドバイザー	杉本 容子
		河村 岳志
＜事務局＞		
大阪商工会議所	地域振興部部長	中野 亮一
	地域振興部副主幹	中村 裕子
		(以上 12人)

## (2) 検討内容

＜第1回WG：平成23年7月27日＞

1. 「大阪市・東横堀川拠点環境整備調査」結果報告
2. 検討の方向性について
3. 秋の本町橋船着場活用実験について（大阪水辺バル、小型船係留実験など）
4. 意見交換

＜「本町橋船着場小型船係留プロジェクト」の実施：平成23年10月1日～31日＞

＜第2回WG：平成24年2月27日＞

1. 本町橋船着場小型船係留プロジェクト 実験結果
2. 東横堀川の拠点的な水辺環境整備（案）について
3. 意見交換

＜第3回WG：平成24年5月16日＞

1. 東横堀川・本町橋周辺における水辺の賑わい拠点づくり（案）について
2. 意見交換

東横堀川(本町橋周辺)における水辺の賑わい拠点づくりについて  
～小型船が行きかう"水と光のコリドール"の回遊基地をめざして～

平成24年6月

大阪商工会議所